

組合士 アラカルト

大阪府中小企業組合士協会

会長

角 すみ

満さん みつる

組合士の活躍の場はたくさんある——できることをできる範囲から「じょうじ

組合士活性化の切り札はOB組合士

現在、組合士の全体構成は、組合内の組合士が33・3%。商工中金と中央会の組合士が50%弱、そして、OBの組合士等がおよそ20%を占めている。このような状況を捉えて、大阪府中小企業組合士協会の角満会長は組合士が活発に活躍するには、「一方では組合内組合士をサポートしなければいけないし、他方では組合外組合士の活躍の場を考えていかなければいけない。その両輪で運営していくと組合士制度の魅力が明確にできるのではないかと考えています」と言う。

角会長が特に、これからの組合士の活性化の切り札になると考えているのは、OB組合士の活躍である。「OB組合士は長年にわたって組合運営などを経験されて豊富な専門的知識を持っています。この豊富な経験と知識を活用しない手はない」というのである。

「組合の中には、専従職員を持たない事務局もあります。OB組合士が、ある程度の業務委託を受けながら、そういう組合の運営を支援していくことは十分可能です」と指摘する。このような事業の外部委託を行うには、組合事務局の仕事

の区分けも必要となる。業務の整理ができれば、ひいては組合活性化にも繋がっていくだろう。

組合はピンポイント新事業を企画しよう

組合が活性化するには、組合員がまず組合の存在価値を認めることが不可欠である。しかし、実際問題として、多くの組合では、「組合に加入しているメンバーが減っている」と感じている組合員が増えている。では、組合員にメリットを感じてもらうには何が今、求められているのだろうか。

角会長は、「今後やるとすれば、情報化と教育研修事業になるだろう」と指摘する。その場合、組合事務局はできるだけ組合員のニーズを吸い上げ、従来のような全組合員を対象としたいわば大教室方式ではなく、関心やテーマごとにグループのように集まっている組合員を対象に、たとえていえば少人数のゼミナール方式でピンポイントの事業を行っていくことが要点になっていくだろう。

「とはいえ、難しく考える必要はない。日々の仕事の中でできることからできる範囲で取り組んでいけばいい。ただ、このような視点で捉えて事業を企画してい

くという明確な意識付けと行動は必要不可欠です」と角会長。そして「そういう企画ができるのが組合士。新しい事業の企画は組合士がやるべき仕事」と指摘する。たとえば、人材育成セミナーなど組合員がやってほしいことを小グループ単位で企画、実行する。あるいは国の施策について少しかみ砕きながらその導入をお手伝いする。そういう事業を展開していくことで組合の存在価値が上がる。そうすれば組合員も組合の存在意義を認め、ひいては会費収入増にも繋がるのではないかと。だから、事業の企画を工夫して、どう組合の存在価値を高めるかがポイントになると角会長は見る。

中央会、組合士協会は強力な組合サポーターになろう

しかし、このような新事業やその企画を組合事務局とその組合士だけで実行することはなかなか難しいのも事実である。角会長は、「そこにこそ、指導機関である中央会とともに組合士協会の役割も考えられる」と言う。組合士協会にはOB組合士も多く、豊富な経験に基づくアイデアも望める。組合士協会はそういう豊富な人材をバックに、「組合事務局にこ

ちからを出掛けていき、話を聞いたりアイデアを提供したりという働きかけをしてもいい」。

まず事務局、それから中央会や組合士協会ができることをできる範囲でスタートし、やがて組合員にも新しい視点、意識を持ってもらう。これが次代の組合活性化のベースになると角会長は考えている。

新たな活動が生まれる日も遠くない

「企業経営も同じですが、環境によってどんどん変わっていくかなければいけないし、考えるよりどんどん動いて試行して行かなければいけない時代」だと言う角会長は、「組合が組合員のニーズを掘り起こし、中央会や組合士協会に繋いでいく。あるいは、中央会や組合士協会から組合に働きかける。そういう相互の関係を作っていく。それが組合にも、中央会にも、組合士協会にも基盤強化に繋がると指摘する」。

もちろん、その中心は組合事務局であり、組合士である。これからのいろいろな事例やモデルが生まれる可能性は高い。

